

平成29年度 学校評価

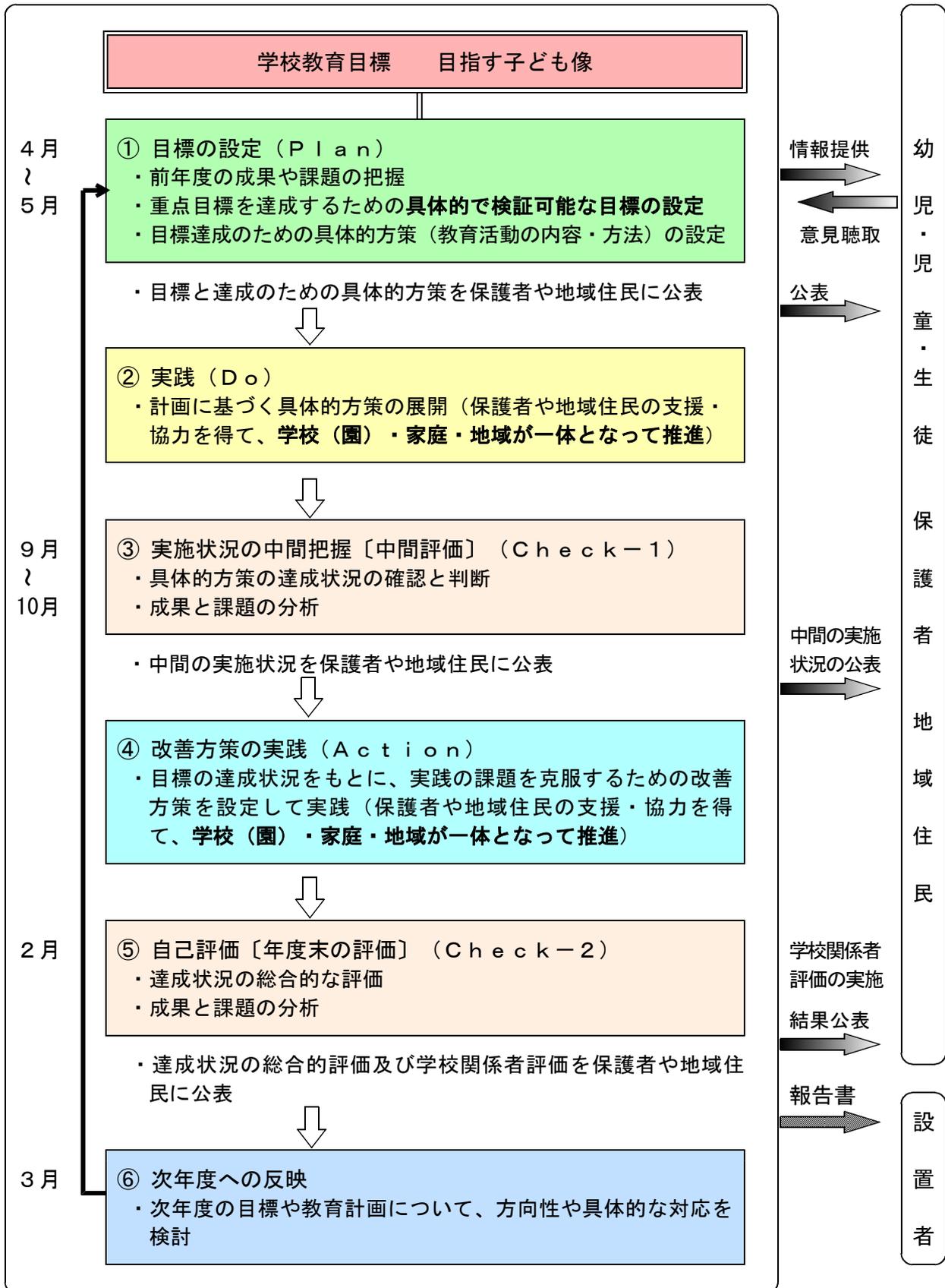
平成29年度 「自己評価」

・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成29年度 秋田県立新屋高等学校 教育計画

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

2 教育方針

- | | |
|-----------------|---|
| I 基本的な生活習慣の確立 | 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成 |
| II 学力の向上 | 強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成 |
| III 特別活動の充実 | 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成 |
| IV 進路目標の早期決定と実現 | 早期に進路目標を決定し、その実現に向かって真剣に努力する人間の育成 |

3 経営方針

I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。

II 重点目標

- (1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。
- ①地域の学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。
 - ②校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
 - ③家庭と連携し、必ず朝食を摂るなど規則正しい生活を送ることにより、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
 - ④危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。
 - ⑤スクールカウンセラーや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。
- (2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
- ①朝学習を10分間とし、心を落ち着かせてから授業に取り組ませることにより、学力向上につなげる。
 - ②3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かせないなど、集中力を高める工夫を行う。
 - ③評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
 - ④学習に関するオリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
 - ⑤授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。
 - ⑥「休養日」の設定や、部活動終了時刻の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
 - ⑦教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。
- (3) 生徒会活動や部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
- ①生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。
 - ②日々の練習を通して、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。
 - ③創立40周年に向かう新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
- (4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標実現に真剣に取り組む生徒を育てる。
- ①学級担任は、1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒の自主的な進路目標決定を支援し、進路実現に向けて必要となる具体的な取り組みを設定させ、指導する。
 - ②学年部は、生徒一人ひとりの進路目標達成のために力を尽くし、生徒の主体性を尊重しながら適切な指導を行う。
 - ③部活動顧問は、部活動の目標が生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力を通して進路の実現を図らせる。
 - ④進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会を通して生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。
 - ⑤「総合的な学習の時間」を、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

| | |
|------|-----------|
| 評価領域 | 生徒指導・地域連携 |
|------|-----------|

| | | |
|------------|--|---|
| 重点目標 | 自主的・自律的態度を身につけながら、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。 | P |
| 現 状 | 基本的生活習慣が身につけているとは言い切れないが、現在の新屋高校生には最低限の規範意識を持っている生徒が多く、非行・問題行動が発覚していないだけかもしれないが、発生にまでは至らずにすんでいる。課題としては、自ら進んであいさつができる、社会に適応できる能力を育てていく必要がある。 | |
| 具体的な目標 | ①規範意識向上に努める。②非行、事故の未然防止と問題行動発生時の適切な対応。③学年部・教育相談部・地域・家庭との密接な連携。 | |
| 目標達成のための方策 | ①年度当初のスクールマナー教室で、新屋高校のルールとマナーを全校生徒に共通理解として注意喚起をする。 ②朝の昇降口指導や定期的な整容指導による、正しい身だしなみやあいさつの励行等、習慣化できるような指導の徹底を図る。 ③職員間の共通理解と協力体制を持つての指導を心がけ、地生研や関係機関等の情報や、地域社会との密接な連携と情報交換により、事故や問題行動の未然防止を図る。 | |
| 具体的な取組状況 | ①年度初めに、新入生を迎えすぐに「スクールマナー教室」を開催し、「高校生活について～生徒・保護者・職員の共通理解～」を通して新屋高校生としてのルールやマナーを全校生徒はもちろん、保護者に対しても資料を配付し、職員とともに共通理解として注意喚起を促した。さらには秋田中央警察署生活安全課署員を講師に招き、「携帯電話・スマホ・ネット等による誹謗中傷・いじめの防止」について、指導をいただいた。 ②生徒会や風紀委員会、弓道部員の生徒による朝の昇降口指導や定期的な整容指導を実施しながら、正しい身だしなみやあいさつの励行等の意識の高揚につながる指導。 ③集会時やHRでの連絡を通じて、地生研や関係機関等の情報や高校生による事故の事例などを伝えながら注意喚起を促し、特に新屋駅から学校までの通学路のあり方については、地域の一員としての自覚を持たせている。 | |
| 達成状況 | ①新入生はもちろん、2・3年生にも効果があり、上級生がしっかり校則を遵守することで下級生にもその相乗効果として表れているようだ。「いじめ」も皆無とは言えないものの、大きく発展することもなく、早期対応の指導によりほどなく解消している。 ②制服着用や身だしなみの大きな乱れもなく、整容指導による注意や指導には素直に従い、各学年部による再指導ですんでいる。あいさつに関しては個人差があり、自ら進んであいさつできない生徒も少なくはなく、今後も地道に根気強い指導が求められる。 ③地域住民から寄せられる声としては、苦情ではなく期待や心配をしていただく声が多いのは、新屋高校が地域に根ざしている学校だということを生徒一人一人が自覚を持って行動できている表れと考えられる。 | D |

| | | | |
|------|---------------|--|---|
| 自己評価 | (評価) B | <p>(根拠)</p> <p>①年度初めの「スクールマナー教室」での生徒・保護者・職員の共通理解が、規範意識の向上につながり、それを基本として、日常における各学年部、または担任からの指導が功を奏しているようだ。その証拠に学年部を越えての生徒指導部による特別指導はほとんど無いに等しかった。ただし、深刻な「いじめ」の発生はないものの、その一歩手前となるような「いじり」や「からかい」がアンケート調査によりあるという事実もあったので、今後より一層の注意や指導が求められる。</p> <p>②朝学習の定着もあり、遅刻をする生徒がほとんど見られないということは、各学年部副主任による朝の昇降口指導の効果もあり、あいさつの励行や正しい身だしなみは向上されたのではないかとと思われる。</p> <p>③生徒の地域における通学状況の苦情や注意などは、例年に比べ少なかったように思う。むしろお褒めの言葉や感謝の電話連絡等もあり、地域社会と密接に関わる学校としての生徒一人一人の自覚の表れと評価できる。</p> | C |
|------|---------------|--|---|

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| | | | |
|------------|---------------|--|---|
| 学校関係者評価と意見 | (評価) B | <ul style="list-style-type: none"> ・新屋駅や駐輪場の利用の仕方は以前と違い見違えるほど立派になった。 ・新屋高校生はあいさつも態度もしっかりしているという声を聞く機会が多い。新屋地域の行事に積極的に参加し、地域の方々とふれあう機会が増えて大変結構なことであり、地域の活性化のひとつの大きな力になっている。 ・登下校時のマナーについては地域の方々の目もあり、心配はなさそう(苦情は聞かれない)地域と密接に関わる学校として今後も生徒一人一人が自覚を持って行動してほしい。 ・自転車乗車マナーについて、事故のないよう継続した指導をしてほしい。 | C |
|------------|---------------|--|---|

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <p>最近学校に寄せられる声は、苦情やお怒りというよりも、むしろご心配いただいております。お言葉をいただくことが多く、地域の方々には「おらほの学校」という温かい目で見守っていただいているという感があり、本当にありがたいことと感謝している。ただ、そのご心配が交通事故という結果につながっていることは事実であり、命に関わるような大きな事故ではないにしても、自転車による事故が多く発生してしまったことは大きな反省点でもある。問題行動の発生が無かったことは(発覚しなかっただけかもしれないが・・・)成果の一つではあるが、校訓にもある「自尊」という意識の向上を生徒一人一人が自覚を持って行動できるよう、指導を徹底しなければならないものと思う。</p> | A |
|-----------------------|--|---|

| | |
|------|-----------|
| 評価領域 | 学力向上・進路指導 |
|------|-----------|

| | | |
|------------|--|---|
| 重点目標 | 個々の能力・適性を伸ばすきめ細かな学習指導・進路指導を行い、早期に明確な目標を持ち、その実現のために進んで努力する生徒を育てる。 | P |
| 現 状 | <p>学校全体として落ち着いて授業に取り組み、進学・就職とも実績が上がって来ているが、次のような課題がまだある。</p> <p>①授業で生徒の主体的な取り組みを十分に引き出せていない。 ②社会に対する興味・関心・知識が薄い。 ③進路目標設定が遅い。 ④家庭学習の習慣が確立していない生徒が多い。</p> | |
| 具体的な目標 | ①授業改善 ②キャリア教育を通じた精神的な成長・成熟 ③早期の進路目標具体化 ④家庭学習時間の増加 ⑤個に応じた指導 | |
| 目標達成のための方策 | <p>①授業改善…アクティブラーニング型授業の要素として、生徒同士の主体的、協働的な学習活動を取り入れ、学力を向上させる工夫をする。</p> <p>②キャリア教育による精神的成長…将来の目標を持たせたる進路講話、職業ガイダンス、進路別ガイダンス、大学模擬授業、総学の活用等。キャンパス訪問(1年生)、職場訪問(2年生)の実施。進路に関する読書指導(1・2年生)。朝学習の新聞記事購読(全校)。</p> <p>③1・2年次の進路目標具体化…二・三者面談の充実。ガイダンス等の充実。キャリアアドバイザーによる積極的な支援。</p> <p>④家庭学習時間の増加…週末課題等、授業に活かせる宿題・課題の工夫。朝学習による自学・自習の定着。「部活動休養日」の確保。夏・冬休み初めの「学習強化期間」。学習時間調査の実施。</p> | |
| 具体的な取組状況 | <p>①授業改善に向けて、授業アンケート、互見授業を実施。中学校や他高校への授業視察をし各自の授業力向上の参考にした。教育専門監による授業改善研修、大学入試改革に関する職員研修を実施した。</p> <p>②進路別ガイダンス(3年生)、進路講演会(1・2年)、職業ガイダンス・キャンパス訪問(1年)、大学模擬授業・職場訪問・インターシップ(2年)、進路読書指導(1・2年生)、朝新聞等実施。</p> <p>③二・三者面談の充実。キャリアアドバイザーの職業講話・就職指導。進路検討会(3年)。</p> <p>④各科目でシラバスを配付し内容と進度の見通しを立てられるようにした。週末課題・朝学習実施。週1日の部活動休養日「ももさだの日」。学習強化期間、放課後の充実。全員模試・TOEIC-Bridgeの実施(1・2年生)。学習時間調査を4回実施し、それに基づいた担任からの声かけや、学年通信による呼びかけ。</p> | D |
| 達成状況 | <p>①昨年度から「授業の規律を守らせ、生徒の主体的・協働的な学習活動を促す授業の実践」というテーマで授業改善を行っている。</p> <p>②進路講話、諸ガイダンス、キャンパス・職場訪問等は、進路目標設定のみならず、職業観や勤労観等の育成に結びついている。3年目となる進路読書指導や朝新聞は定着し、AO・推薦入試等に臨む土台作りに役立っている。</p> <p>③キャリアアドバイザーのきめ細かな就職指導により、年内に全員就職内定し、公務員の合格者も増加した。2年生進路検討会を従来の冬休みから秋に前倒しして実施し、受験生としての自覚を早期に持たせるよう図った。</p> <p>④夏・冬休みの学習強化期間に、特別の事情のある生徒を除いて1・2年生のほぼ全員が出席した。ただし、家庭学習時間は各学年とも約1時間/日で昨年並である。</p> <p>⑤面接・小論文指導開始を早め(3年夏休み前から)実施した。</p> | |

| | | | |
|------|---------------|---|---|
| 自己評価 | (評価) B | (根拠) 生徒の学力向上と進路実現のために、授業改善に向けた諸取組やキャリア教育充実に向けた工夫を図った。 授業アンケートの生徒評価は、総じて昨年度並みまたは改善を見ている。「授業のわかりやすさ、内容の充実」について十分に満足している割合が昨年度より高くなっており、授業改善への先生方の継続的な取り組みが反映されていると思われる。また、生徒の「ベル着ベル授業の実施」「授業の規律遵守」への意識は昨年同様高くなっている。しかし、予復習をととてもよくやっているという生徒が少なく予復習の習慣づけの取り組みが必要である。早期に進路目標を定め、それに向かって精一杯努力するということが十分にできていない生徒が、まだ少なくないことも課題である。また、保護者の評価は概ね昨年度並みではあるが、全体的に生徒評価に比べて低くなっている。学力向上や進路指導の取組の状況について、より周知を図っていく必要があると思われる。 | C |
|------|---------------|---|---|

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| | | | |
|------------|---------------|--|---|
| 学校関係者評価と意見 | (評価) B | 授業改善については、生徒の評価が上昇しているのは喜ばしいことであるが、生徒の評価に比べ保護者の評価が低いのが残念である。もっと学校からの情報を多く発信していく必要があるのではないか。家庭学習時間の増加についても同様に、家庭との連携が重要である。 キャリアアドバイザーのきめ細かい指導もあり年内に全員内定が決まったことは評価できる。今後は、増加している公務員志望者の合格率上昇にも力を入れて欲しい。 進路目標の早めの設定は重要だが、目標設定のための目標設定になってしまわないよう、生徒の将来ビジョンについて十分に議論をつくして欲しい。 | C |
|------------|---------------|--|---|



| | | |
|-----------------------|---|---|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <p>授業改善については、生徒にも受け入れられてきているが大学入学共通テストの導入に向け、さらに知識の深い理解と思考力・判断力・表現力を身につけるようさらに改善を続けていかなければならない。</p> <p>家庭学習時間の増加、授業改善への理解向上のため、家庭との連携を高める必要がある。そのために、PTAのあり方を見直していきたい。</p> <p>生徒の多様な進路希望をかなえるため、生徒の将来ビジョンについて考える機会を増やすとともに、講話などだけではなく体験的な活動を通して自分の進路について具体的に考えるようにしていきたい。</p> | A |
|-----------------------|---|---|

| | |
|------|---------|
| 評価領域 | 特別活動の充実 |
|------|---------|

| | | |
|-------------------|---|---|
| 重点目標 | 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。 | P |
| 現 状 | 中期ビジョンにおいて「毎年複数の競技が全国大会出場」と掲げられている中、今年度は弓道部とバドミントン部がインターハイに出場し、特に弓道部においては入賞を果たした。他にサッカー部・水泳部の東北大会出場等の成果をあげているが、こうした活躍を全体の活性化につなげていくことが求められる。生徒会活動では、学校行事において生徒一人ひとりの達成感そして全校の一体感を高めるよう取り組み、ボランティア活動や地域行事にも積極的に参加している。 | |
| 具体的な目標 | ①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達 | P |
| 目標達成のための方策 | ①生徒会活動の充実・・・生徒会執行部を中心に、主体的な行事の企画・運営ができるよう指導する。地域との交流を深めるため、学校行事等について地域への周知を図る。 ②部活動の活性化・・・全体的なレベルアップ、そして上位大会で活躍できる部の育成のため、学校全体としての支援体制を確立する。各部において適切で合理的な活動が行われるよう各顧問・部員の意識を高める。 ③心身の調和した発達・・・文武両道の精神に則り、学業や部活動に高校生としての本分を尽くせるよう個々の自覚を促し、それぞれの目標に対する意欲を高める。 | |
| 具体的な取組状況 | ①生徒会執行部を中心に各委員会等と連携し、学校行事等の企画・運営に積極的に取り組んでいる。地域の協力をいただいてポスターを掲示したり、HPにて紹介をし、学校行事の周知に努めた。また、恒例となっている地域の祭りや各種ボランティア活動に、一般生徒からも希望者を募って積極的に参加している。 ②規程に則って活動のない部を廃止した。各部の実情に応じて外部コーチを委嘱することで、さらなる競技力の向上を目指し、部員・指導者の意識改革を図った。また不定期ではあるが、部活動応援YELLを発行し、学校全体で部活動を応援する体制を強めようと取り組んでいる。 ③心身の健全な発達を効果的に促せるよう、「百三段の日」を尊重しながら各部の実情に応じて週1日の部休を設定し取り組んでいる。特に考査前や学習強化期間において学習時間の確保に努め、中には部単位で勉強会を実施するなどの取り組みも見られた。 | |
| 達成状況 | ①生徒会活動では、短い準備期間にもかかわらず最大限の工夫を凝らして臨んだ新高祭や体育委員を中心に各クラスが結束した校内体育大会など、各学校行事を全校生徒の力を発揮して盛り上げた。また、地域行事である日吉山王例大祭や大川散歩道雪祭り、栗田支援学校運動会ボランティア等、地域との交流活動に積極的に参加した。 ②今年度は弓道部の男子個人・女子団体、バドミントン部の女子団体・ダブルスがインターハイに出場し、弓道男子個人で7位、女子団体では4位入賞を果たした。東北大会には弓道部・バドミントン部の他、サッカー部・水泳部が出場した。また、サッカー部（全県新人優勝）・弓道部・バドミントン部・水泳部が東北新人大会出場、弓道部は全国選抜大会出場を決めている。 ③百三段の日（部活動休業日）や考査前の部休、学習強化期間の定着により、部活動を行っている生徒も学習時間をある程度確保できる環境作りがされている。部活動においても進路においても高い目標を持って励んでいる生徒が多く見られる。 | D |

| | | | |
|------|---------------|---|---|
| 自己評価 | (評価) B | <p>(根拠) アンケート結果より</p> <p>①生徒会が活発に活動しており、生徒たち自身もHR活動・委員会活動を積極的に行っていると回答しているが、新高祭や校内体育大会の満足度は若干落ちている。それぞれ準備期間が短いこと、天候により実施できない種目があったことが影響していると考えられるが、一般生徒からの意見を取り入れるなど、内容に工夫を要する。地域行事への参加やボランティア活動においては恒例化しているが、さらに地域との交流を深めていきたい。</p> <p>②全国大会出場の弓道部、バドミントン部の他、東北大会出場のサッカー部、水泳部など、今後に活躍が期待できる成果をあげている。部活動において具体的目標が示され、計画的に行われているという点で評価が上がっており、このような見通しを持った活動が結果につながるよう、支援体制の一層の充実が必要である。</p> <p>③部活動休養日の設定状況は良好のようだが、学習時間確保に有効と回答した入部生徒は若干減少している。また、教職員アンケートでは特活推薦生徒の指導の重要度が高くなっており、部活動と学習の両立に向けて、担任や教科担任、学年部の協力を仰ぎながら顧問の指導強化が求められる。</p> | C |
|------|---------------|---|---|

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| | | | |
|------------|---------------|--|---|
| 学校関係者評価と意見 | (評価) B | <p>部活動において目標が明確に示され、具体的な取り組みにより、確実に成果が現れている。複数の部活動がハイレベルな結果を残し、さらに上を目指そうとする姿は、学校のみならず地域の方々にも大きな期待・希望を抱かせてくれている。地域に貢献することにより、地域が応援してくれる。それに応えて結果を残し、地域の人たちに喜んでもらう。そしてまた、地域が応援してくれる。そのような循環ができてきているように思う。ボランティア活動については一般生徒も積極的に参加している一方で、生徒アンケートでは参加意識が下がっている。参加することへの目的意識を高めるための方策が必要と思われる。学習と部活動の両立を図るために生ずる生徒および指導者の負担等に関しては、保護者も巻き込んで全員が意思統一を図る努力をすることにより、改善に向かうことができるものと思う。新高OBが社会的に中核を担う立場となっており、そのような先輩たちを良い手本として頑張ってもらいたい。</p> | C |
|------------|---------------|--|---|

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <p>学校行事において盛り上がりを見せているが、生徒会執行部と各HR・委員会との連携をさらに密にし、多くの生徒に役割を分担して取り組むことで満足度アップにつなげていきたい。ボランティア活動について、ボランティア委員会と連携して広報活動を強化するとともに、家庭の協力も得ながら活動の意義を考えさせる機会を持たせていきたい。部活動に関して、地域の方々からも大きな期待を寄せていただいております。外部コーチ委嘱の継続とともに、場所・用具・時間等の環境整備を可能な範囲ですらに充実させていきたい。身体面を鍛錬し勝利を追求することはもちろんのこと、心の育成においても一層努めていくことが、いずれ結果につながっていくものと思われる。入部生徒の学習時間確保および特活推薦生徒の指導について、(前述したが)担任や教科担任、学年部の協力を仰ぎながら当該顧問の指導強化が必要である。</p> | A |
|-----------------------|---|---|